

当該創造性

1)部分と全体性

1-1 本質性・真相性

個別特定現象について、根本且つ全体大局の観点を引き出し性格や性質を浮かび上がらせる創造性が生まれる。

1-2 相対の優劣意識

例えば、高校球児が好打を放ち、ガッツポーズする態度が見られる。よくやった。良かったね。という心象が生まれる。

1-3 心象、生存競争、生と滅、食うか食われるか、非人間性

しかし、あまりにオーバーなアクションで、相手投手に向け勝ち誇ったような振舞いに映るとどこか引いた感じの心象に下降する。こうした因果が生じるのはなぜか。

1-4 領域と公的尺度、健全と持続、人格性

相手を打ちのめしたい願望が強く表れる。技能を高めたい磨きたい欲望をもって、日々の苦しい鍛錬を重ね成果を実現する自己に向き合いエネルギーを投げ形が現れ自己に向けガッツポーズが前面に生じ、それで終わらない持続的な向上と成長を求める未来性の力を作る様子が想像される習慣と性質への好心象の技能と人格性を見る。

1-5 一時の結果と持続性

勝ち負けへの一時的な結果に留まらず、技術の限界を乗り越え無限的な成長と探求を有し人格的な成長を含む心技体の動静を持続する性格に大きな称賛と良き正の活力が増し直接間接のプラス基調の好循環を拡大させる。

1-6 結果意識の強まり、制御性の不能、犯罪に着手

勝敗に拘りしてはならぬ反則に外れてまで一次の結果性に陥ると相手との同一基盤を崩し、自律と自制の果たされぬ精神面の脆さへの不快が起こり社会性に疑念と不信が生じ肯定より否定の心理が働く。

1-7 自然性と社会性、根本性と全体大局性

「自然的技能、社会的人格、根本的な生命、全体的な生態」という観点と関連の体系と周期の文脈性と集約観を産む。「野球スポーツ打撃、技能、」という特定現象から、「生と世界の根本と全体と大局観」や「過程と結果と持続の抽象集約」が映し出される。体全体性を通し対象の欲求や願望、理想や志の中身が浮かび上がる。生の性質に抽象される。

1-8 即効と部分最適、小手先性、生命人間人格の不信

戦略や戦術という概念と運用が見られる。良く現況を抑え上手に生と財を得る技能を投じる作為と解される。あまりに、小細工に陥り心理的な面での断絶を招く因果に働かないか。精神的な歪性と負の心理を齎せる技能の向上は、分断と断絶、表面と体裁、形骸化、神経・精神の痩せ細り、感性の歪性を伝える。表裏の乖離、言動の乖離、根本の悪化、力の依存と支配、人間の物体化、無機質合理、机上の学習で得点を得る習慣が増し小手先の技能と演出、人工性計画性、生の痩せた性質を作る様子が表面化する。

1-9 基軸概念

基軸的な概念が崩れ枝葉の観点と部分最適の創造が増す。陰気な薄ら笑い、歪なガッツポーズを作る今日的な人間性を伺う。根本且つ全体大局と個別特定の相関を構成する創造の枠組性を生む。

2) サービス経済化の進行

2-1 広告宣伝、流通性

製造内容、広告宣伝、資金提供、具象性と抽象性、根本の観点、内容より装飾、一過的刺激性、知名度の普及、内容と案内のギャップ、信用喪失、破綻性、場所取り場所貸し、コスト性の少ない高リターン、既得権、利権と暴利、寡占構造、地主、歪な保守、改革、開放性の圧力、

2-2 身内意識と公の意識

親戚、知人、同じ学校、裏口から入り頼む。表玄関から入る。インサイダー取引、談合、結論は決まっている。それに及ぶ過程、基準と良し悪しの判定、健全な競争性、物事の良し悪しよりも、人的な関係性、私的關係、金を裏で上げる。公性を欠き、私的権力を乱用、権力権限を用いて私腹を肥やす、不正が多発し、技術力を向上させる気力を失う、公平公正な競争性になく、閉鎖的な村社会と秩序性、

2-3 信用醸成、過大評価

親し気に著名人有力者と並び写真を撮り、自己を大きく見せるように選出し宣伝する。演出性、小手先性の作為、社会的信用醸成、基軸的な創造力の習慣性の痩せた、小細工性による金の入手、成長性、

2-4 言葉概念の形成と流通

生命観に落ち着きある見解が弱く、グローバルなる横文字と概念を用いる事の不健全性が生じる。一種の宗教性の形成に作用する。意味不明性と混乱性の生と宗教の働きが生まれる。対立と混乱、恨み辛みと負の循環を広げ深めることのなき、有効策が望まれる。衣食住や制度の形成と共に言葉や概念も、産業性と付加価値性の要素を含む。良質の概念形成と流通が求められる。

3)根本性と基礎性

3-1 宗教観

特定の宗教団体に加入して信仰心が有ると解釈する偏った宗教観が進む傾向が映る。生命・人間とは、如何に「あるべきか、ある、する」という観点と文脈から宗教の質実が現れる。あまり狭い宗教観と専門性が増すほどに、宗教は非日常を指し示すかの概念と運用が進む。土台性の観念が歪化すると二次三次と歪な基準と運用に外れる。基礎基盤性の科目内容の良し悪しが重要性に作用する。科学万能的感覚に支配されて根本観念が歪化する。社会科学などと科目名称を無造作的に用いる様子は、生と創造の定式性の崩れた姿を伺う。

3-2 活動性と創造観

無限の対象から、何を特定し主題性に絞り、あるべきとあるとするという動態を展開する習慣と性質に文化なる概念を充てる。健全な生の作動している姿を見る。社会科学では完結の一巡の根本性が満たない。哲学と科学と技術の相関と持続の観点から根本性が浮かび上がり、生と人間の根本と基礎性を生む。特定専門性が進み、根本性と全体大局観という側面が減退し歪化した部分最適に回る事は生の歪性を伝える。宗教性の歪化している状態を認識する。

創造の基本式

動静・文化：習慣と性質			
静的	動的		
何を	どのように		
主題性	あるべき	ある	する
宗教、哲学		科学	技術
根本性 感性・概念・精神・身体			

3-3 生命観

健康科学などという表現が見られる。そもそも、生の健康とは如何に考えるのか。哲学的な見方を前段に求め、科学と技術を投じ完結の一巡の周期と体系の持続をもって生の健康を映す。基礎根本性の安定した概念と認識が弱まると、歪な概念を二次三次と形成し、生の歪性を広げる。

健康とは？という問いに対し、一定の答えがあり、哲学性が備わり、「あるとする」の科学と技術を投じ検証と改善の持続に文化観を産む。生の健康性という概念と実際を観測し評価と施策に具象化される。哲学性を欠く領域観は不健康な生の様子を表す。生物物理的な生命観と健康観は部分性の健康観にあり、心理情動と概念形成と精神面と生物物理の因果を含む活動性と根本性を有する生命観に不動性が映る。

3-4 社会観

経営者や政治家、教育者、宗教者等々、主導者性の意図する一方向的な考えとそれに従う労働者という構図が強まり、労働者は何も考えずにただ従えという態度が増すほどに、哲学不在の科学万能の因果に支配された世界が生まれる。人形とロボットの量産体制と利用が広がる。あまりに健康な社会性や社会観から外れる。道具と消費の欲求が強く育成や教育の欲望が減退した歪な人間や社会と生態が作られる。物質依存の激しい力の支配の秩序性を常態させる。良好な人間を作る再生産の生態系が萎み格差性と破滅性の軌道を進行させる。

3-5 潮流と未来性

兵隊はいくら亡くなっても良い。軍事と戦争で経済を強め所得を増やし豊かな生活を遂げる。などという発想が強まる事は常軌を逸した生の欠陥性が進み深まる。

大局性：生の習慣と性質：欲求や願望、理想や志

静的 動的	体系			
	全体	根本	具象	
周期	産出	生態	頭脳面	生と領域の あるべき概念未来性
		社会	精神面	自律、自制
		自然	身体面	技能性
	根幹	創造	習慣	欲求、発想、思考、行為
	根源	生命	感性面	自他の良好な生と持続

4)公教育と私教育

4-1 基軸性の産出と習慣

直接的な産出性は何か、良し悪しの基準は、作り上げる過程は、論理の明瞭性、直接的要素、副次的要素、

4-2 生の性質

盗み症、騙し癖、略奪性、慢性化した肥満や犯罪性、病理性、良い所を上手に盗み取る。省資源で大きな効果、効率過多の感覚、怠け者、愚図な気性、モラル破綻性、非社会性、

4-3 基準性の形成と文字表現

逃げ道を塞ぐのに、明瞭に文字で示す。言い逃れ、嘘、ご都合主義、負け犬気質、愚図、口頭のやり取り、文字と文章化、言った、言わない、逃げる性質、誤魔化しが効かない、記録を残さない、曖昧、責任逃れ、上手く欺き糧を得る、良い処どり、負担を少なく、リターンを大きく、省資源と高リターン、効率過多、生の痩せ細り、根本性の崩れ、犯罪病理性、

4-4 領域の主導性

常識、秩序、習慣と性質稚拙な論理、未成熟な主導性、牽引性、良し悪しの判断、価値観、基準と運用、産出検証と改善の持続、習慣、

4-5 Win Win の関係？

妙な横文字と抽象表現、小手先性の宣伝訴求と同質の基準と運用、根本観点の希薄性、抽象観念、肥満性の作為、ボンボン育ちと肥満性、歪な地位の固定化、善を気取る、スターを演じる、陶醉的、幼児性、物理依存の激しい主導性、

4-6 両極性

個々人性と集団性、先人と後発、既成と新設、肥満な保守勢力、破壊的自由勢力、両極性、暴力性と詐欺性、間の因果、基準と過不足、

4-7 公教育と私教育

見識、理念、領域観念、知識、政策、技能、情報、基礎と根本、理解、納得、共感、現象、普遍的不変の尺度、基準と過不足、評価性、急進の歪性を予防するのに変わりづらい尺度の導出と時々環境認識と適正な調和策、

4-8 特定的概念：情報化、サービス経済化、

やはり、「見識」という要素が脆弱で、観測と評価、流通を行う事は正より負の効果が広がる。変わりづらい生の在り方や理想性の観点が備わり、意図する世界観の形成に広がり、概念性が整理され、対象の選定と観測と評価、伝達の作用に回る創造観が生まれる。大きな技術力を用い影響を増したいなどという欲望と充足において必要な要件を求め、健全な生の広がりを作る構造や制度性が整備される。

あまりに偏った特殊性によると領域の歪性に籠が効かず、歪な優劣と序列の広がりや固定性を招く。情報化する特定概念を導出する前段には生の根本や全体大局観の適正を必要にし特定の適正に相関する。基礎や全体大局観を欠いた部分最適の弊害を予防する。サービス経済化する概念も同様に基礎的概念に重心が備わり部分の適正を制御する。

4-9 長期周期性、中期と短期周期性

基礎性や専門性なる概念と中身を構成するに際して、変わりづらい不動性の概念を土台性に引き出し、安定的な重力性のもとに、部分と全体を構成する構造と体系及び周期を含め、動静の集約観をもって、生の健全と持続の習慣と性質を生む。生の原型性と創造の枠組み性に、安定した見方があり、時々の変動と動静の最良に向けられる。

